

令和6年 11月 7日

令和6年度 第6回 安全衛生・CS WG 議事要旨

I. 日 時 : 令和6年 11月 7日(木) 15:00~17:00

II. 場 所 : 木住協6階会議室

III. 出席者(敬称略) 欠席者はアンダーライン (出席者8名)

委員長 : 秋本 正人(住友林業(株))

リーダー : 瀧澤 哲也(住友林業(株))

委 員 : 谷口 哲哉((株)日本ハウスホールディングス)、楡井 洋(古河林業(株))、
杉山 勝也(ポラテック(株))、牧内 博行((株)AQ Group)、
嶋田 味穂(大和ハウス工業(株))

オブザーバー : 武永 祐嗣(㈱プラネックス)

事務局 : 鈴木 保宏、松澤 ひろ美

【議事事項】

1. 前回議事録の確認 (資料1)

・事務局で読み上げ、修正なし。

2. 生産技術委員会 YouTube セミナー動画視聴回数(10/31現在) (資料2)

(瀧澤リーダー)

8月 227回 9月 267回 10月 309回と

微増ですが、じわじわと増えてきているので、今後も
経過をみていく。

3. その他、情報として

(武永オブザーバー)

・2025年に向け、労働安全衛生法 改正の動きがある。

内容としては、「高齢者に対する労働災害防止のための配慮」等の努力目標
ガイドラインを出していく。

(瀧澤リーダー)

- ・高齢者に対する定義も曖昧だし、抽象的結論に終わりそう。

(武永オブザーバー)

- ・2022年の集計だが、

65歳～69歳の就業率	50.8%	おおよそ、2人に1人
-------------	-------	------------

70歳～74歳の就業率	33.5%	おおよそ、3人に1人
-------------	-------	------------

という数値になっている。

4. 安全関連書籍「電動・エアー工具と脚立安全作業のポイント」にて (資料書籍)

1) 前回の訂正確認

P23 : ディスクグラインダーなのかディスクグラインダなのか、正しい名称は？

→メーカーはディスクグラインダ (マキタ等の表示)

等の話がでたが、最終的にこのページは変更なし。

P26 : グラインダーは時速 200 kmを超える高速で回転～

→ 砥石は時速 200 kmを超える高速で回転～

に変更

: 囲みの中、③ 保護メガネ → ③ 保護具へ変更

P27 : ●研削砥石を破壊、飛散させないために！

の6つの絵については、

上段左：ピカピカ表現の絵→削除

上段中：最高使用周速度の説明にて割愛。

上段右：そのまま使用

下段左：下段中の絵と纏めて1つへ

下段中：上記同様

下段右：そのまま使用

6つ→3つへ

P27 「最高使用周速度」の説明

下から3行目文章

- ・例えばグラインダーの回転数が 12,000min⁻¹ の場合、砥石の外径が 100mm であれば、その砥石の周速度が 63m/ s 以上であれば使用できます

↓

- ・例えば砥石の外径が 100 mmで周速度が 63 であれば、12,100 回転まで、回せるので、回転数 12,000 のグラインダーで使用できます

P28 「よくあるグラインダーの災害事例と防止策」

- ・一番上の絵 タイトル訂正

軍手をして外壁サイディングを切断中、手がすべり グラインダーで、手を切り、軍手を巻き込んで親指を骨折（開口部リフォーム工事中）

↓

リフォーム工事で外壁サイディングを切断中、手がすべり軍手が巻き込まれ親指を骨折

- ・二番目の絵（設備業者災害事例に入れました。）

外部先行配管工事で、塩ビ管をグラインダーで切断、そのまま切断砥石で面取りしていたところグラインダーがすべり、塩ビ管を押さえていた左手に当たり裂傷

- ・二ポツ「作業用に合った砥石を使用する。」の砥石は、研磨用砥石と表示

- ・三番目の絵

P29 にあったワイヤーブラシの事例をこちらに移動。

- ・ワイヤーブラシ事例、グラインダーに装着して使用するので、この砥石の項目の中で扱う。

P29 タイトルを「電動のこぎりを使い分けよう！」→「安全性向上のために！」に変更。

- ・パドルスイッチ型を追加・紹介。
- ・マルチツールを追加、紹介

P30

タイトルを「グラインダーの災害から身を守るために」へ

- ・研削用と切断用の砥石カバーは形状が違うので、用途に合ったものを使用

- ・卓上グラインダー使用時の注意点、保護具使用を追加。
- ・目に異物がはいたらの対処方法を説明（現実には削らない絵は削除）

※ 「グラインダー」の表記は、「グラインダー」のままで続行。

新規

P31 脚立作業の安全

（瀧澤リーダー）

- ・最近、各社、脚立の上に乗っての災害事例ってありますか？

（各委員）

- ・ないことは、ないが以前より少なくなっている。

（武永オブザーバー）

- ・前回のテキストにおいて「なぜなぜ問答」で表現されているのは、脚立災害（天板に乗って作業していて、バランスをくずし転落等）は人的要因（その時の作業者の心理）が大きく影響しているという意見が多かったという理由による。

（瀧澤リーダー）

- ・脚立に乗って、バランスをくずし、落ちた、倒れた、踏み外したというのはその作業に合った脚立を使用していないから、事故が起きる。
- ・今の時代、天板に乗ってという事例は少ないと思われる。
今回は、後のページの災害事例から、追って、この部分は、多く取り上げたほうが、いいと思うものをトップに持ってきて掘り下げていく。

P36 「脚立の安全チェックポイント」

準備作業のチェックポイント

- ① 脚立自体の安全
- ② 設置場所の安全

- ・4つめのポツ

「ぬかるんだりしないか」→「ぬかるんだりしていないか」

- ・最後のポツ（8 番目）

「開口部の近くでは、開口部をふさぐか、安全帯を使用する」の、安全帯はいらないのではないか。安全帯をどこにつなぐかという話になる。

「開口部をふさぐ」で表記

P37

③ 昇降時の安全

④ 作業時の安全

- ・今は、天板に乗らない、またがらない。

よって、(1) (3)は削除。

そうすると、絵は(2)のひとつしか無くなる。

- ・天板から、二段下より上に立たない（天板を一段目）
- ・(2) のボリューム増やす。
- ・(2) の脚立の絵が、閉じているように見えるので、訂正。

P38

一番目の例

- ・そもそもが、跨いで乗って作業している。

二番目の例

- ・跨いで乗っている例なので、片側にのっている絵へ（事例は成り立つ）
- ・防止策としては、他の作業者の搬入口確保のために、背伸びしているので、事前に作業者間で連絡をとる。優先順位を決めておく（現場監督含む）

（瀧澤リーダー）

転落と墜落の違い

- ・自社の場合、脚立から落ちる災害は、全て「墜落」表記
- ・このマニュアルでも、脚立から落ちる→「墜落」で統一

三番目の例

- ・脚立を梯子代わりに使用しない
- ・この事例の場合、元請けはお客様から室内搬入の許可を得ていた等、表記があるが、現場に伝わっていない可能性もあるので、対策として現場監督は、事前に作業方法も含めて現場に指示を出す。

P39

一番目の例

- ・ 脚立を二台並べての作業に無理がある。
→ 差し替え対象とする

二番目の例

- ・ 脚立を跨いで作業すると、こういう事例（脚立を背に昇降して落ちる）
- ・ まず、作業姿勢の問題

（杉山委員）

- ・ → やってはいけない事例として、P38 一番目の事例を使用してはどうか。

（瀧澤リーダー）

- ・ 脚立を跨げないよう、天板+一段目を巻き込むシートを作成指導。
- ・ 上枠付脚立の推奨もマニュアルに表記

（武永オブザーバー）

- ・ 脚立での作業時、ヘルメットかぶってますか？
- ・ ヘルメットをかぶってないと、命にかかわる災害になることもある。
再度、ヘルメット着用の重要性をマニュアルに謳う。

（瀧澤リーダー）

「1 メートルは、1 命取る」の言葉もある。

- ・ ヘルメット未着用で、休憩中ケガした事例もある。
- ・ 外構業者もヘルメット未着用が多い。

次回WGに向け、

- ・ 杉山委員提案の P38 一番上の脚立に跨っている絵をトップに持ってきて、掘り下げ、脚立の乗り方等に繋げていく。

（武永オブザーバー）

- ・ 11 月イラスト部隊も、身動きできないので、修正は 2 か月分を 1 月のWGに持ってきます。

(瀧澤リーダー)

- ・次回は、各社、自社の脚立がらみの災害事例を持ち寄り、すり合わせ等により、洗い直しして、対策として「上枠付脚立がいい」等の流れへ展開。
(各社、上記事例を11月末まで、武永さんへ、先に送付お願いします)
- ・3月完全リリースに向け、推進していく。

※ その後（新年度）の見直しは、

※

「木造家屋解体工事の安全管理ポイント」(2012.1)を予定

【今後の予定】

令和6年度 第7回

・安全衛生・CS WG 令和6年12月9日（月）15：00～17：00 木住協6階

以上